

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492200371	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成23年4月1日
法人名	社会福祉法人 県央福祉会		
事業所名	ラ・プラージュ湘南		
所在地	(251-0037) 神奈川県藤沢市鵜沼海岸6-7-14		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様の生活支援に重きを置き、認知症になっても安心して過ごせる場所、環境、空間を提供できるように努めています。
そのために常に学ぶ姿勢を大事にして専門性の向上を目指しています。
看取りに関してもご家族ご本人様の意思を尊重し、できる範囲で行っています。
食事は職員が手作りし、季節に応じた食材を多く取り入れています。ご利用者様にも可能な限り関わっていただいています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年11月21日	評価機関 評価決定日	令和7年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR線、小田急線、江ノ電「藤沢」駅からバスで「鵜沼車庫」行きに乗りして10分、「藤原」バス停から徒歩3分で、市営球場「八部公園」が目の前に位置する木造2階建ての建物です。
＜優れている点＞
人材育成に注力し外部研修希望者には法人が費用を負担しています。各職員が自分の得意を活かし、大型の季節の掲示物作品を毎月利用者と一緒に制作する、利用者全員の似顔絵をリビング壁面に展示する、筆で全員分の表れを書く、ピアノ演奏と歌、心のこもった手作り料理の提供など、様々な取組をしています。職員は利用者に対し優しさと思いやりで接し、利用者は日々安心・安全、穏やかにゆったり満足して過ごしています。また、以前世話になった縁で、今でも気軽に立ち寄ってくれる家族や、介護施設の入居先を探している知人を紹介してくれる家族もいます。管理者は「ここに入所して良かった」と言ってもらえる施設を目指しており、そのため、学ぶことや地域との関わりに努めています。
＜工夫点＞
リビングのコーナー天井にカーブミラーを設置し、オープンキッチンからも見守りができるようにしています。機械浴を備えていますが、リスクを避け、足湯とバスタオルを身体にかけて2つあるシャワーの片方をかけ流しで湯船に浸かっている様な状態で温まってもらえるように工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ラ・プラージュ湘南
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念のほかに事業所独自の理念を作っています。目につくところに掲示し、常に意識できるようにしています。	法人理念のほか、事業所独自の理念「一人一人の主体性があるその人らしい生活」の実現を目指しています。利用者の人となりを大切にし、課題が出た時は、管理者とリーダーが主体となって理念に立ち返り、全員で理念を共有し解決に向けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会には加入し、地域の一員ということのを忘れないようにしています。まだコロナも収束していないので積極的な交流はありませんが、近所の方や散歩の際のあいさつは習慣化しています。	地域との交流や繋がりを大切に考えて積極的に進めたいと考えています。地元農家の協力でサツマイモ堀りに参加したり、定期的に法人の協力事業所から「トランスフィットネス＆ミュージック」が来訪し、歌や体験の機会があります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症があっても地域で生活できることを知っていただくために、散歩や買い物には日常的に行うようにしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度、実施しています。地区社協、民生委員、地区代表、入居者様ご家族、入居者、介護保険課等にお声がけさせ参加して頂いています。2か月間の報告をアドバイスをいただいています。	運営推進会議では報告だけでなく、利用者家族や地域の様々な関係者が連携し、意見交換が図れるよう努めています。	さらに民生委員など高齢者支援に関わる地域の人達に参加してもらうため「認知症を理解するレクチャー開催」など、地域に向けての情報発信が期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	藤沢市グループホーム連絡会に参加し、市の担当者とともに情報共有を行っています。空き室があるときなど、紹介してもらえるよう協力してもらっています。	高齢支援課へは運営状況報告や介護認定、加算などの相談をし、アドバイスを受けています。また防火管理者の変更届出を市役所と消防署へ提出しています。昨年はノロウイルスが発症し、保健所へ報告して連携しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	法人の身体拘束に関する研修を全職員を対象に行っています。また、身体拘束に当たるケアがないか振り返りを行い、そこでの内容をフロアごとのミーティングにおいても確認して、職員間で情報共有が出来るようにしています。	管理者を含む常勤者と非常勤者が参加し、開催日時を調整しながら3ヶ月ごとに委員会を開催しています。研修会は基本的に全員が参加出来るタイミングで、参加できる職員は休みでも参加しています。議事録は全員に回覧して周知し共有しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人の虐待防止に関する研修を全職員対象に行っています。また、ミーティングなどを通して虐待についての情報共有をするようにしています。また、虐待セルフチェックの実施にも努め、自身のケアの振り返りや意識付けを行っていきます。	「痣がなぜ出来たのか？自分でぶつけたのか？」という疑いで高齢者支援課による調査が入っています。虐待の事実はないとの調査結果でしたが、これを機に共有部分へのカメラ設置検討や1、2階の連携、互いに異変を見逃さないという意識が高まり、対策を立てています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学べる研修などの機会を設けることが今年度は出来ていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、退去時、改定の際には利用者やご家族の不安や疑問を尋ね、それに対して十分な説明を行い、理解・納得を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月に1回新聞を発行し、事業所の様子を伝えるとともに、担当職員が一筆箋で入居者様のご様子を報告しています。また、面会時には積極的にコミュニケーションを図っています。中々来られない方には、メール等でコミュニケーションを図るようにしています。	面会の際に管理者または職員が対応し、家族の意見を聞き、課題があれば解決しています。「最近の様子や薬に関すること」の質問が多く、その都度対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の各フロアのミーティングやケースカンファレンスの際に意見や提案を聞く機会を設けています。また、管理者も現場に入るようにし、コミュニケーションを取りやすいようにしています。	管理者は日々の申し送りを重要と考え、気になる点があればミニカンファレンスを行い意見を聞いています。管理者は、全員の意見が一致するまで待たず、まずはやってみよう、責任は管理者がとる、と伝えています。朝出勤したら夜勤者に何かあったか、直接話しを聞いています。	各委員会のメンバーは1階と2階から選出されますが、現在1階と2階の合同ミーティングがありません。今後は1、2階の更なる連携強化のため、「報告・連絡・相談」の徹底が期待されます。
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全職員に年に1回意向調査・満足度調査、年に2回ストレスチェックが行われ各職員の心身の状況を把握に努めています。	人事評価制度と給与体系連動、永年表彰スキルアップ研修など、希望者に対して事業所負担で受講可能とする年間予算が組まれています。年間休日の他、規定有給、介護休暇、育児休暇、新人歓迎会、職員慰労会などがあります。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員への引継ぎなどは常勤が伝えることに拘らず、経験値やスキルの高い職員に積極的に行ってもらっています。また、随時研修の情報等は玄関に掲示をしたりもしており、職員に情報提供をするようにしています。	今年度第8回の法人全体の実践報告&研究発表で、管理者と常勤職員が看取りの対応で3位の表彰を受けています。それぞれの階層に合致した研修や環境整備にも取り組んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内では月に一度管理者が集まる会議を実施しています。 常勤ですが、法人内のグループホーム職員との交流会を設け、意見交換や情報収集の場を作っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族および関連機関等から利用者様のこれまでのご様子・嗜好・既往歴等の聞き取りを行い、スタッフ間で情報共有し、介護計画を作成しています。また、利用者様のご入居後は積極的に声かけを行い、利用者様のご意向や潜在的な不安等を確認し、信頼構築につなげられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションの中で入居者様の普段の生活の様子を多面的に確認することにより、ご家族等が困っていることや不安なこと、要望などを汲み取り、信頼構築出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様のこれまでの病状の経緯や、ご家族の様子・ご意向等の聞き取りを行い、必要とされる支援の見極めやそれらの優先順位を設定します。そして、ご家族の同意を得た上で、当施設で出来ること、関連機関への支援要請を含め、広い視野でのサービス提供を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者およびスタッフは、「共にホームで生活を送る一員同士」でもあり、入居者に接するにあたっては生活歴や性格などに配慮し、ご本人の人権を大切にしたり関わりを持ち、お互いに良好な関係を築けるように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者のご家族も入居者を支える一員であるという考えのもと、ご家族・スタッフとの間でお互いに必要な情報の共有をはかり、お互いに協力し合いご入居者様をお支え出来る関係性を構築出来るように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様のこれまでの生活様式等をご家族・関係者の方々より確認し、これまでの生活環境に出来るだけ近づけるように努めています。また、ご家族やお知り合いの方による施設への訪問・面会機会を作ってもらえるよう、施設より適宜情報を発信しています。	最高齢者103歳の誕生日会は大勢の家族が祝福するのが一番と考え、そのために紅白幕を購入し、家族全員で集合写真を撮り、孫と一緒に食事をした事例があります。旧友が度々来訪し、利用者が喜んでいます。出来る事を支援し協力しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペース等において入居者様同士での過度の干渉等が見受けられた場合は、適切なタイミングでスタッフがお声かけや簡単な家事を協同で行って頂くなどして、適宜介入することにより、入居者様同士の良好な関係作り・維持が出来るように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じてサービス終了後も利用者であった方のご様子やご家族の状況などを伺い、過度な干渉にならない範囲での相談・支援を行えるように良好な関係の継続・維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者・ご家族・その他関係者の方々のご意向を確認し、スタッフ間で共有・分析を行い、ご希望に沿った支援を行うように努めています。また、ご意向の把握が困難な方でも、ご本人の気持ちを汲み取り、その方が何を求めているのか職員間で共有し、ケアにつなげています。	家族から人となり聞き、生活をしていく中でゆっくり時間をかけ理解していくようにしています。決めつけはせずに常に「もしかしたら？」と問いかけながら利用者に寄り添ったケアをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前よりご本人やご家族、関係機関から生活歴やその方の人となり等の聞き取りを行い、ご入居されてからも環境の変化、対応の変化に混乱することのないように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様一人ひとりについては、日々の記録や申し送りを中心に、また定期的に行うフロア会議等を通じてスタッフ間での情報共有・現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を作成するにあたっては、ご本人やご家族、スタッフ、関連機関等の必要な関係者と話し合いをし、定期的にモニタリングを入れることにより、現状に即した介護計画を作成出来るようにしています。	本人と家族の意見を取り入れ、「家の延長にあるところを目指した」介護計画を立てています。安全第一とし、個人の残存能力を活かしながら安心して暮らすために、どうすれば快適に生活できるかを医師のアドバイスも取り入れて作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録については、入居者個々に24時間スケールでの個別記録をとり、日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫等を確認出来るようにして、職員間で情報共有したり、介護計画の見直しに活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者やそのご家族から出た希望については、可能な限りご希望に沿えるよう、入居者およびご家族と相談をしながらサービスの検討・対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染症の流行具合や感染症への対策に配慮をしつつ、公園散歩やコンビニ・ドラッグストア等への外出、地域の社会福祉協議会が中心となって毎年実施している芋掘りに参加したり、地域とのつながり・地域への参加を大事にするように意識をしています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様の体調不良時は、提携している訪問看護ステーションや主治医に指示を仰ぎ、対応をしています。また、24時間体制で往診して頂けるようにしています。	訪問看護師が各フロア別々の曜日に来訪することで、利用者の急な体調変化にも対応することができています。特に薬に関しては常に相談をして指示を仰ぎ、職員間で二重のチェックをするなど誤飲に細心の注意を払っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師の定期来所時には、日々の中での気づきや情報を伝えて相談し、個々の入居者様が適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院の際に安心して治療が出来て、可能な限り早期に退院できるよう、日頃より主治医や訪問看護ステーション等との積極的な関係作りおよび情報共有に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期と思われる入居者様には早期にご本人やご家族の意向を確認し、担当主治医や訪問看護師を交えて支援に取り組んでいます。	入居時に指針の説明をし同意を得ています。終末期に利用者本人だけでなく、家族にもしっかり寄り添えるよう職員間で話し合いを重ねています。看取った後でも家族との関係が続いており、寄り添ったケアができた証と感じています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成しており、これに基づき緊急時の対応を行うよう周知・徹底をしています。また、不定期ですが外部機関へ研修依頼をして、実践力を培える機会を設けることもあります。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災、地震、水害等の災害を想定した法人内の訓練や、事業所内での訓練を年に数回程度実施をしています。	9月に垂直避難訓練と3月に地震を想定した消防訓練を職員と参加可能な利用者とともに実施しています。川や海が近い場所にあるので、備蓄品として全員分のヘルメットとライフジャケットを用意しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりのプライバシーを確保し、相手の気持ちを大事にした言葉かけや対応をするように心がけています。	ケアする側とされる側としてではなく、人生の先輩として敬意を持って接しています。慣れてくると距離が近すぎではないか職員間で常に確認し合っています。否定はせず、そのままを受け入れることを念頭に置いてサポートするように心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	各入居者様が発する言葉や表情、動作等の様々な角度より、ご本人様の思いや希望を汲み取り、自己決定につなげられるように努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の生活歴に着目し、傾聴にも重きを置き、お一人おひとりの思いに沿ったその人らしい暮らしが出来るように支援をしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の生活の中で、おしゃれを楽しんで頂けるように、ご自身で洋服を自由にコーディネートして頂いたり、鏡を見てお化粧をして頂いたり、また定期的な訪問美容にて希望に沿ったヘアカットやカラー等のおしゃれも楽しんで頂いています。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	長年の主婦としての経験も活かして頂けるよう、入居者と職員と一緒に野菜の下ごしらえや料理の味見などに参加して頂いています。下膳後の食器洗いや食器拭きなどの家事への参加もして頂いています。	食事担当が当日献立を考え手作りにこだわって提供しています。まず目から食事を楽しんでもらえるよう、彩りと盛り付けにこだわり、完食してもらうために大きさ、硬さ、量を個々に変えて提供しています。和食ばかりでなく洋食も取り入れるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランス、色合いの工夫で食欲の増大を考えて、各々に合った摂取量を心がけ提供しています。また、アレルギー持ちの方には細心の注意を払いメニューを考えています。水分に関しては嗜好面、体重面を考慮し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、義歯を外して洗浄や歯磨き、うがいをして頂き清潔保持を心がけています。また、必要な方には歯科往診を受け、状態の確認をお願いしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	介助の必要な方には時間で声かけをしてトイレに案内をしています。ある程度、自立度の高い方に関しては不快感を抱かせないように、客観視しながら、使用後に排泄確認をしています。	利用者の排泄パターンやサインを把握してトイレに誘導しています。夜間もポータブルトイレを使うなど、できるだけトイレで排泄できるように支援しています。またサポートの際はなるべくドアの外で待つなど見守りの位置を工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の予防と対応として、毎朝の牛乳提供を行ったり、運動への働きかけを行っています。また、個々に応じて便秘薬を使用して頂くこともあったり、長期に便秘が続かないよう医師の協力のもと取り組みをしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	各入居者様の体調を考慮しながら、気持ち良く入浴できるよう、タイミングを図り支援をしています。	介護度の高い利用者は機械浴を利用しての入浴が可能です。シャワー浴の人は身体が冷えないように足湯や、肩にタオルをかけ、2つあるうちの1つのシャワーをかけ流しにするなど湯船に浸かっているような気持ちになってもらえるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各入居者様の生活パターンを理解し、昼食後の安静臥床を声かけしたり、夜も定期的に様子見をして、安心して眠れるよう支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援を症状の変化の確認に努めています。また、間違えがないようダブルチェックを行い、誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。その日の気分や体調により、その方に合ったことを見つけるよう努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	皆さま一人ひとりご希望に沿えるよう努めています。体力面も考慮しながら気分を変えて頂けるよう、新鮮な空気と季節毎の景色に触れ、楽しめる機会を提供しています。	近隣の公園でピクニックしたり、川沿いを散歩したり、駐車場で外気浴をしています。車いす利用者も車に乗り、自治会の芋堀りに参加しています。中には推し活でコンサートへ行ったり、家族と外食をしたりして生活に楽しさと潤いを作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様の多くは長期間の間、主婦業をされてこられた方たちで、お金を所持することで心の安心感・余裕につながることもあり、個々のお気持ちを大事に支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話のやり取りは、ご本人様の負担にならない程度に、そしてご家族様にも負担にならない程度にお声がけしながら、ご理解頂けるように支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間は、毎日モップ掛けや掃除機を使用し清掃しています。窓やカーテン等の開閉にも注意し、心地よく過ごして頂けるように、環境面にも意識的に配慮をしています。	天井が高く広々としたリビングで、利用者が穏やかに寛げるように配慮しています。毎月壁には職員のアイディアが詰まった季節の作品が飾られています。キッチンから死角になる廊下を見渡せるよう、天井角にカーブミラーを設置する工夫で利用者の安全を見守っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間である廊下にはソファ、テレビを配置し、気の合う方、お一人でもくつろげるスペースを作っています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様の居室には各々の思い出の品や写真等を飾り、安心して過ごせるように配慮をしています。居室の整頓、衣替え、シーツ交換等は定期的に行い、居心地よく過ごせるようにしています。	ベッド、カーテン、エアコンが備え付けです。家族写真やお祝いの色紙を飾ったり、好きな本をたくさん持ち込んだりなど各々の心地良い空間作りをしています。転倒防止のため家族同意の下、センサーマットを使用している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様に分かりやすいようにトイレを案内表示したり、物品を配置し、可能な限り自立した生活が送れるような様々な工夫をしています。		

事業所名	ラ・プラージュ湘南
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念のほかに事業所独自の理念を作っています。目につくところに掲示し、常に意識できるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会には加入し、地域の一員ということのを忘れないようにしています。まだコロナも収束していないので積極的な交流はありませんが、近所の方や散歩の際のあいさつは習慣化しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症があっても地域で生活できることを知っていただくために、散歩や買い物には日常的に行うようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度、実施しています。地区社協、民生委員、地区代表、入居者様ご家族、入居者、介護保険課等にお声がけさせ参加して頂いています。2か月間の報告をアドバイスをいただいています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	藤沢市グループホーム連絡会に参加し、市の担当者とともに情報共有を行っています。空き室があるときなど、紹介してもらえよう協力してもらっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	法人の身体拘束に関する研修を全職員を対象に行っています。また、身体拘束に当たるケアがないか振り返りを行い、そこでの内容をフロアごとのミーティングにおいても確認して、職員間で情報共有が出来るようにしています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人の虐待防止に関する研修を全職員対象に行っています。また、ミーティングなどを通して虐待についての情報共有をするようにしています。また、虐待セルフチェックの実施にも努め、自身のケアの振り返りや意識付けを行っていきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学べる研修などの機会を設けることが今年度は出来ていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、退去時、改定の際には利用者やご家族の不安や疑問を尋ね、それに対して十分な説明を行い、理解・納得を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月に1回新聞を発行し、事業所の様子を伝えるとともに、担当職員が一筆箋で入居者様のご様子を報告しています。また、面会時には積極的にコミュニケーションを図っています。中々来られない方には、メール等でコミュニケーションを図るようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の各フロアのミーティングやケースカンファレンスの際に意見や提案を聞く機会を設けています。また、管理者も現場に入るようにし、コミュニケーションを取りやすいようにしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全職員に年に1回意向調査・満足度調査、年に2回ストレスチェックが行われ各職員の心身の状況を把握に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員への引継ぎなどは常勤が伝えることに拘らず、経験値やスキルの高い職員に積極的に行ってもらっています。また、随時研修の情報等は玄関に掲示をしたりもしており、職員に情報提供をするようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内では月に一度管理者が集まる会議を実施しています。 常勤ですが、法人内のグループホーム職員との交流会を設け、意見交換や情報収集の場を作っています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族および関連機関等から利用者様のこれまでのご様子・嗜好・既往歴等の聞き取りを行い、スタッフ間で情報共有し、介護計画を作成しています。また、利用者様のご入居後は積極的に声かけを行い、利用者様のご意向や潜在的な不安等を確認し、信頼構築につなげられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションの中で入居者様の普段の生活の様子を多面的に確認することにより、ご家族等が困っていることや不安なこと、要望などを汲み取り、信頼構築出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様のこれまでの病状の経緯や、ご家族の様子・ご意向等の聞き取りを行い、必要とされる支援の見極めやそれらの優先順位を設定します。そして、ご家族の同意を得た上で、当施設で出来ること、関連機関への支援要請を含め、広い視野でのサービス提供を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者およびスタッフは、「共にホームで生活を送る一員同士」でもあり、入居者に接するにあたっては生活歴や性格などに配慮し、ご本人の人権を大切にしたり関わりを持ち、お互いに良好な関係を築けるように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者のご家族も入居者を支える一員であるという考えのもと、ご家族・スタッフとの間でお互いに必要な情報の共有をはかり、お互いに協力し合いご入居者様をお支え出来る関係性を構築出来るように努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様のこれまでの生活様式等をご家族・関係者の方々より確認し、これまでの生活環境に出来るだけ近づけるように努めています。また、ご家族やお知り合いの方による施設への訪問・面会機会を作って頂けるよう、施設より適宜情報を発信しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペース等において入居者様同士での過度の干渉等が見受けられた場合は、適切なタイミングでスタッフがお声かけや簡単な家事を協同で行って頂くなどして、適宜介入することにより、入居者様同士の良好な関係作り・維持が出来るように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じてサービス終了後も利用者であった方のご様子やご家族の状況などを伺い、過度な干渉にならない範囲での相談・支援を行えるように良好な関係の継続・維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者・ご家族・その他関係者の方々のご意向を確認し、スタッフ間で共有・分析を行い、ご希望に沿った支援を行うように努めています。また、ご意向の把握が困難な方でも、ご本人の気持ちを汲み取り、その方が何を求めているのか職員間で共有し、ケアにつなげています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前よりご本人やご家族、関係機関から生活歴やその方の人となり等の聞き取りを行い、ご入居されてからも環境の変化、対応の変化に混乱することのないように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様一人ひとりについては、日々の記録や申し送りを中心に、また定期的に行うフロア会議等を通じてスタッフ間での情報共有・現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を作成するにあたっては、ご本人やご家族、スタッフ、関連機関等の必要な関係者と話し合いをし、定期的にモニタリングを入れることにより、現状に即した介護計画を作成出来るようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録については、入居者個々に24時間スケールでの個別記録をとり、日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫等を確認出来るようにして、職員間で情報共有したり、介護計画の見直しに活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者やそのご家族から出た希望については、可能な限りご希望に沿えるよう、入居者およびご家族と相談をしながらサービスの検討・対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染症の流行具合や感染症への対策に配慮をしつつ、公園散歩やコンビニ・ドラッグストア等への外出、地域の社会福祉協議会が中心となって毎年実施している芋掘りに参加したり、地域とのつながり・地域への参加を大事にするように意識をしています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様の体調不良時は、提携している訪問看護ステーションや主治医に指示を仰ぎ、対応をしています。また、24時間体制で往診して頂けるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師の定期来所時には、日々の中での気づきや情報を伝えて相談し、個々の入居者様が適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院の際に安心して治療が出来て、可能な限り早期に退院できるよう、日頃より主治医や訪問看護ステーション等との積極的な関係作りおよび情報共有に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期と思われる入居者様には早期にご本人やご家族の意向を確認し、担当主治医や訪問看護師を交えて支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成しており、これに基づき緊急時の対応を行うよう周知・徹底をしています。また、不定期ですが外部機関へ研修依頼をして、実践力を培える機会を設けることもあります。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災、地震、水害等の災害を想定した法人内の訓練や、事業所内での訓練を年に数回程度実施をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりのプライバシーを確保し、相手の気持ちを大事にした言葉かけや対応をするように心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	各入居者様が発する言葉や表情、動作等の様々な角度より、ご本人様の思いや希望を汲み取り、自己決定につなげられるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の生活歴に着目し、傾聴にも重きを置き、お一人おひとりの思いに沿ったその人らしい暮らしが出来るように支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の生活の中で、おしゃれを楽しんで頂けるように、ご自身で洋服を自由にコーディネートして頂いたり、鏡を見てお化粧をして頂いたり、また定期的な訪問美容にて希望に沿ったヘアカットやカラー等のおしゃれも楽しんで頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	長年の主婦としての経験も活かして頂けるよう、入居者と職員と一緒に野菜の下ごしらえや料理の味見などに参加して頂いています。下膳後の食器洗いや食器拭きなどの家事への参加もして頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランス、色合いの工夫で食欲の増大を考えて、各々に合った摂取量を心がけ提供しています。また、アレルギー持ちの方には細心の注意を払いメニューを考えています。水分に関しては嗜好面、体重面を考慮し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、義歯を外して洗浄や歯磨き、うがいをして頂き清潔保持を心がけています。また、必要な方には歯科往診を受け、状態の確認をお願いしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	介助の必要な方には時間で声かけをしてトイレに案内をしています。ある程度、自立度の高い方に関しては不快感を抱かせないように、客観視しながら、使用後に排泄確認をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の予防と対応として、毎朝の牛乳提供を行ったり、運動への働きかけを行っています。また、個々に応じて便秘薬を使用して頂くこともあったり、長期に便秘が続かないよう医師の協力のもと取り組みをしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	各入居者様の体調を考慮しながら、気持ち良く入浴できるよう、タイミングを図り支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各入居者様の生活パターンを理解し、昼食後の安静臥床を声かけしたり、夜も定期的に様子見をして、安心して眠れるよう支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援を症状の変化の確認に努めています。また、間違えないようダブルチェックを行い、誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。その日の気分や体調により、その方に合ったことを見つけるよう努めています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	皆さま一人ひとりご希望に沿えるよう努めています。体力面も考慮しながら気分を変えて頂けるよう、新鮮な空気と季節毎の景色に触れ、楽しめる機会を提供しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様の多くは長期間の間、主婦業をされてこられた方たちで、お金を所持することで心の安心感・余裕につながることもあり、個々のお気持ちを大事に支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話のやり取りは、ご本人様の負担にならない程度に、そしてご家族様にも負担にならない程度にお声がけしながら、ご理解頂けるように支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間は、毎日モップ掛けや掃除機を使用し清掃しています。窓やカーテン等の開閉にも注意し、心地よく過ごして頂けるように、環境面にも意識的に配慮をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間である廊下にはソファ、テレビを配置し、気の合う方、お一人でもくつろげるスペースを作っています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様の居室には各々の思い出の品や写真等を飾り、安心して過ごせるように配慮をしています。居室の整頓、衣替え、シーツ交換等は定期的に行い、居心地よく過ごせるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様に分かりやすいようにトイレを案内表示したり、物品を配置し、可能な限り自立した生活が送れるような様々な工夫をしています。		

2024年度

事業所名 ラ・プラージュ湘南
作成日： 2025 年 5 月 22 日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	さらに民生委員など高齢者支援に関わる地域の人達に参加してもらうため「認知症を理解するレクチャー開催」など、地域に向けての情報発信が期待されます。	認知症についての情報発信について、検討を重ね、実施できるようにする。	地区社協、民生委員、地区代表、入居者様ご家族、入居者、介護保険課等にアドバイスをもらいつつ、どのような情報発信ができるか、検討、実施につなげていく。	12ヶ月
2	8	各委員会のメンバーは1階と2階から選出されますが、現在1階と2階の合同ミーティングがありません。今後は1、2階の更なる連携強化のため、「報告・連絡・相談」の徹底が期待されます。	1、2階の更なる連携強化。	・月1回、各フロアのミーティングやケースカンファレンスの際に、他階のフロアリーダーに参加してもらい、各階の状況把握、良い部分を持ち帰り、導入できるようにする。 ・各階のミーティング議事録を参照できるよう、各階の議事録ファイルに挟み、確認できるようにする。 ・レクリエーション等、各階が交流できる時間を増やせないか検討、実施できるようにする。	12ヶ月